

事前評価個表

事業名	水源地域整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成25年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ささ かわ 笹ノ沢 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、南津軽郡大鰐町の早瀬野ダム下流に位置し、平成22年8月31日から9月1日にかけての大雨により、山腹及び溪岸の崩壊に起因する土砂災害が発生し、下流直下の町道が被災した。このまま放置すれば、溪床内に堆積する不安定土砂が流出し、直下の町道に被害をあたえる恐れがある。このため、町道より上流部の溪床内に堆積する不安定土砂を早期に安定させ、土砂流出及び溪岸の更なる侵食の防止を図ることを目的として、溪間工を計画し、町道の保全及び保安林機能の増進を図るために事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	43,047	千円
	総費用（C）	22,633	千円
	分析結果（B/C）	1.90	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸侵食の状況から、放置すれば土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止、安定が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に適切な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	防災林造成	事業実施計画期間	平成24年～平成25年度(2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	で き し ま 出来島 (青森県)	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署金木支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、つがる市西部の日本海沿岸に位置し、毎年の波浪と強風により海岸侵食する被害を受けた。このまま放置すれば、今後の波浪による被害の拡大により、後背地に位置する防風保安林が被災し、県道及び農地等の保全対象に多大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、本事業においては、潮波による海岸の侵食を防止することを目的として事業を実施し、後背地の防風保安林機能の維持、増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 防潮工 100m</p>		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	98,142	千円
	総 費 用 (C)	50,814	千円
	分析結果 (B/C)	1.93	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 被害の状況から、放置すれば被害が拡大して後背斜面の崩壊が拡大し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、現況海岸の安定が図られ、防風保安林機能の維持、増進により、後背地の保全が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率性が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	防災林造成	事業実施計画期間	平成24年(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	しやりき 車力 (青森県)	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署金木支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、つがる市北部の日本海沿岸に位置している。 平成23年に林野火災によりクロマツが消失する被害を受けた。林野火災被害箇所は海岸線前線に位置する海岸防災林であり、背後の海岸防災林の生育にも重要な役割を担っている。 このため、本事業において、海岸防災林の速やかな復旧を目的として事業を実施し、後背地の防風保安林機能の維持、増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 植栽工 1.2ha</p>		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	73,530	千円
	総 費 用 (C)	5,769	千円
	分析結果 (B/C)	12.75	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 被害の状況から、放置すれば被害が拡大してクロマツ林が衰退して、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、海岸防災林の機能強化、維持増進が見込まれ、後背地の保全が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地理状況から見て技術的に妥当な計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率性が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おおた 太田 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 津軽森林管理署金木支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、五所川原市北部の十三湖に注ぐ相内川上流域に位置し、水源かん養保安林に指定されている。</p> <p>本計画箇所の森林は過密化等により水土保持機能が著しく低下している状況にあり、今後の豪雨により山腹崩壊や流木等が発生する恐れがあることから、本数調整伐の実施により適正な林分密度とし、保安林機能の維持増進を図ることを目的として事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 本数調整伐 43.58 h a</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	48,944	千円
	総費用（C）	8,654	千円
	分析結果（B / C）	5.66	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 林分の状況から、放置すれば保安林機能が著しく低下し、山腹崩壊や流木が流出し、下流へ被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、適切な林分密度となり下層植生の回復等が図られ、水源かん養機能の維持増進が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 事業実施の計画に当たっては、現地の林分状況から見て妥当な事業区域、事業内容で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ひょうろう 栴 榔 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 青森森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は外ヶ浜町北部に位置し、平成22年9月1日の豪雨により山腹崩壊等が発生し、人家等に被害を与えた。 このことから、今後の降雨等による崩壊斜面の拡大が懸念されることから、崩壊地の拡大及び土砂流出を防止し、斜面直下の保全を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.25 h a</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	194,341	千円
	総費用（C）	28,846	千円
	分析結果（B / C）	6.74	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大して土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、崩壊土砂防備機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果も認められることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成28年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	龍飛地区 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 青森森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は外ヶ浜町最北端に位置し、平成22年9月1日の豪雨により多数の山腹崩壊箇所から土砂等が流出し、人家等に被害を与えた。 このことから、今後の降雨等による崩壊斜面の拡大及び荒廃が顕著な未崩壊斜面の崩壊による土砂流出、さらに斜面頭部の風化が発達した露岩からの落石等による被害が危惧されることから、斜面直下の保全を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1.76ha</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	2,451,881	千円
	総費用（C）	278,501	千円
	分析結果（B／C）	8.80	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大して土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、崩壊土砂防備機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果も認められることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	いもだ 芋田 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 下北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区はむつ市脇野沢西部に位置し、平成23年の豪雨により集落上部の溪岸崩壊が発生し、多量の土砂等が流出し下流の人家及び市道に被害を与え、溪流内には未だ不安定土砂が堆積している状況にある。 このため、不安定土砂の流出、溪岸侵食を防止し直下にある人家等の保全を図ることを目的として事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	40,168	千円
	総費用（C）	12,500	千円
	分析結果（B／C）	3.21	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 溪流荒廃の状況から、放置すれば不安定土砂の流出及び溪岸侵食が拡大し、保全対象に被害を及ぼす恐れがあるため、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、溪流内の安定が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おいつべがわ 老部川 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 下北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、東通村南部の太平洋に注ぐ老部川流域に位置し、水源かん養保安林に指定されている。</p> <p>本計画箇所の森林は過密化等により水土保持機能が著しく低下している状況にあり、今後の豪雨により山腹崩壊や流木等が発生する恐れがあることから、本数調整伐の実施により適正な林分密度とし、保安林機能の維持増進を図ることを目的として事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 本数調整伐 68.64 h a</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	60,798	千円
	総費用（C）	13,462	千円
	分析結果（B / C）	4.52	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 林分の状況から、放置すれば保安林機能が著しく低下し、山腹崩壊や流木が流出し、下流へ被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、適切な林分密度となり下層植生の回復等が図られ、水源かん養機能の維持増進が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 事業実施の計画に当たっては、現地の林分状況から見て妥当な事業区域、事業内容で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成26年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ふなつきさわ 舟附沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 三陸北部森林管理署久慈支署
事業の概要・目的	<p>当地区は久慈市南東部の久喜漁港の直上に位置し、土砂崩壊防備保安林に指定されている。</p> <p>当地区は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波の遡上による溪流荒廃及び山腹崩壊が発生し、多量の不安定土砂が溪流内に堆積している状況にある。</p> <p>このため、溪床内に堆積する不安定土砂及び山腹斜面の安定を図り、直下の保全対象への土砂被害防止及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.04ha 溪間工 6基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	202,729	千円
	総費用（C）	139,480	千円
	分析結果（B/C）	1.45	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 溪流の不安定土砂堆積状況及び山腹崩壊状況から、放置すれば不安定土砂の流出、山腹荒廃地の拡大などにより、保全対象に被害を及ぼす恐れがあるため、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、土砂の流出防止が図られ、土砂崩壊防備機能等の向上とともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に適切な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	はしば 橋場 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 三陸北部森林管理署久慈支署
事業の概要・目的	<p>当地区は久慈市滝ダム上流に位置し、平成23年台風の豪雨により溪流上部の山腹が崩壊し、崩壊土砂が溪床及び溪岸が侵食され不安定土砂が堆積している状況である。</p> <p>このため、不安定土砂の流出を防止するとともに溪床及び溪岸の侵食防止を図り、下流域の保全を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	39,994	千円
	総費用（C）	12,500	千円
	分析結果（B／C）	3.20	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 溪流の不安定土砂堆積状況から、放置すれば大雨等により不安定土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、山脚に堆積する不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に適切な工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成25年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おおほし 大橋 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 三陸中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は釜石市西部に位置し、山地災害危険地区に指定されており、直下には民家及び市道等が位置している。</p> <p>昭和51年から治山事業により斜面の崩壊を防止する工事が行われてきたが、降雨等による法面侵食により、斜面中腹に設置された柵工が損壊しており、今後の降雨等により侵食が進行し崩壊の発生する恐れがある。</p> <p>このことから、崩壊斜面の安定化により斜面侵食及び土砂流出の防止を図り、下方の民家の保全を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.08 h a</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	55,162	千円
	総費用（C）	24,149	千円
	分析結果（B/C）	2.28	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば斜面侵食が進行し、崩壊が発生し、保全対象に被害を及ぼす恐れがあるため、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、斜面侵食の防止が図られ、土砂崩壊機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	北ノ沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 盛岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は矢巾町に位置し、当該施工地に隣接して幣がけの滝があり多くの町民が散策等で利用している。</p> <p>当該斜面には落石防止網が設置されているが、斜面の風化、侵食により堆積した土砂の荷重により下部が破断し、北ノ沢の河道に堆積している。このため、散策者の安全を確保するとともに、下流の保全対象（旅館、県道）への被害を防止するため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.15ha</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	55,989	千円
	総費用（C）	23,077	千円
	分析結果（B / C）	2.43	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 放置すれば拡大崩壊し土砂が流下し、保全対象に被害を及ぼす恐れがあるため、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、山腹の安定が見込まれ、散策者の安全の確保とあわせ下流の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成28年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	よこさわ 横沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 盛岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は岩手県北部の岩手町沼宮内地区北東にある横沢川流域に位置し、平成22年7月の豪雨により発生した不安定土砂が堆積しており、下流には保全対象である横沢集落・町道があることから、放置すれば保全対象に被害が及ぶおそれがある。</p> <p>このため、溪岸崩壊等の拡大防止及び溪床内に堆積している不安定土砂の流出を防止し、下流域の横沢集落・町道の保全を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 9基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	290,158	千円
	総費用（C）	129,509	千円
	分析結果（B/C）	2.24	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 溪流の堆積土砂の状況から、放置すれば大雨等により不安定土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、溪流内の安定が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に適切な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ゆのさわ 湯ノ沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は西和賀町北部に位置し、豪雨により溪岸侵食が多数発生し、不安定土砂が下流域に流出したものである。</p> <p>このため、溪間工により溪流の縦侵食及び横侵食を防止し溪床の安定、山脚の固定及び不安定土砂の流出抑止・調整を図り、下方の県道の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	81,817	千円
	総費用（C）	28,846	千円
	分析結果（B／C）	2.84	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 溪岸の侵食状況や溪床内不安定土砂の堆積しており、放置すれば溪岸侵食の拡大及び不安定土砂が流出する恐れあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、溪床内の安定が見込まれ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	地すべり防止（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成26年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おにかべさわ 鬼頭沢 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は一関市西部に位置し、豪雨により地すべりが発生し溪流へ地すべり土塊が押し出したものである。このまま放置すれば、降雨等により地すべりが再滑動し、崩壊地が拡大するとともに溪流に堆積した不安定土砂が流出する恐れがある。</p> <p>このため、地すべり原因となる地下水排除工、崩壊地の拡大及び侵食防止のための緑化工、溪流内に流出した不安定土砂防止のための溪間工等を実施し、下方の市道及び林道の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1.41 h a ほか</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	228,495	千円
	総費用（C）	137,255	千円
	分析結果（B/C）	1.66	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 地すべりの状況から、放置すれば不安定土塊が崩落し、崩壊地が拡大し、保全対象に被害を及ぼす恐れがあるため、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、崩壊地の復旧が図られ、土砂崩壊機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に適切な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	水源地域整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24～27年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	こまたがわ 小又川 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署上小阿仁支署
事業の概要・目的	<p>当地区は北秋田市西部に位置し、山腹上部には風化した露岩が点在しており、中腹部には剥落した転石が不安定な状態にある。</p> <p>このため、山腹直下の県道森吉比内線及び道路利用者に被害を与える恐れがあることから、露岩からの剥落の抑止と転石等の落下を防止し、山腹直下の保全及び保安林機能の維持増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.76 h a</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	171,973	千円
	総費用（C）	103,759	千円
	分析結果（B／C）	1.66	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 風化した露岩及び剥落した転石等の状況から、放置すれば転石等が県道に落下する恐れあることから、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、風化した露岩及び転石等の固定が見込まれ、水土保全機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事業名	保安林整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	うしろやち 後谷地 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、能代市西部の米代川河口の日本海に面し、飛砂防備安林及び保健保安林に指定されている。</p> <p>本計画箇所の森林は能代市中心部への飛砂被害の軽減のほか、散策路が整備され「風の松原」の愛称として市民の憩いの場として親しまれているが、松くい虫被害により飛砂防備機能の低下や景観が悪化している状況にあることから、被害木の伐倒・駆除の実施による被害軽減により、保安林機能の維持増進を図ることを目的として事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 本数調整伐 8.0 h a</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	22,059	千円
	総 費 用（C）	4,808	千円
	分析結果（B / C）	4.59	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 林分の状況から、放置すれば被害が拡大し、保安林機能が著しく低下、飛砂等による後背地へ被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、松くい虫被害の軽減が図られ、飛砂防備機能、保健保安機能の維持増進が図られることから有効性は認められる。 ・効率性： 事業実施の計画に当たっては、現地の林分状況から見て適切な事業区域、事業内容で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成23年度～平成24年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	しろやまさわ 白山沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は秋田市北部に位置し、平成22年6月の豪雨等により溪流内の不安定土砂及び流木が下流の県道や橋梁まで流出する等の被害を与えた。現在も荒廃が進行し、危険な状態にあることから、今後の降雨等による荒廃の拡大及び不安定土砂等の流出する恐れがある。</p> <p>このため、溪床、溪岸侵食及び不安定土砂流出の防止を図り、下流域の民家等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	84,129	千円
	総費用（C）	34,061	千円
	分析結果（B／C）	2.47	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 溪流荒廃の状況から、放置すれば荒廃が進行して土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、堆積する不安定土砂の流出防止、安定が図られ、水土保全機能の向上とともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率性が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効果的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～25年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	なかのさわ 中ノ沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は仙北市北東部に位置し、平成22年7、8月及び平成23年6月豪雨等により溪岸侵食が発生・拡大し、溪床に堆積していた不安定土砂が下流へ流出したことにより道路等へ土砂が流出するなどの被害を及ぼした。今後の豪雨・融雪等により、さらに溪岸侵食の拡大及び溪床の不安定土砂が下流域へ流出するおそれがある。</p> <p>このため、溪岸侵食の拡大と溪床の不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	115,550	千円
	総費用（C）	30,030	千円
	分析結果（B/C）	3.85	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 溪床の荒廃状況から、放置すれば溪岸等の崩壊が拡大し土砂が流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、溪岸侵食等の復旧及び不安定土砂の流出防止が図られ、水土保持機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成25年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	湯ノ沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署 湯沢支署
事業の概要・目的	<p>当地区は秋田・山形県境に位置し、平成22年7月の局所的な豪雨により複数の溪岸侵食及び土石流による不安定土砂の堆積・流木の堆積が発生しており、今後の降雨により、下流に位置する湯沢市道、温泉施設、簡易水道施設に被害を与える恐れがある。このため、溪間工を施工し災害箇所への復旧と下流保全対象への被害の未然防止を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	198,164	千円
	総費用（C）	65,828	千円
	分析結果（B／C）	3.01	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸侵食の状況から、放置すれば土砂が流出し、保全対象に被害を及ぼす恐れがあるため、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂流出防止及び安定が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	水源地域整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	善人沢 <small>ぜん にん さわ</small> （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 庄内森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は月山南西麓部に位置し、融雪等により溪岸崩壊が発生し不安定土砂が溪床に堆積している。保全区域内には下流に位置する国道112号線があり庄内地域と内陸を結ぶ大動脈になっており、両地域の物流・生活の要である。</p> <p>このまま放置すればこれら下流域の保全対象に多大な被害を及ぼす恐れがあるため、崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	81,496	千円
	総費用（C）	48,077	千円
	分析結果（B/C）	1.70	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸侵食の状況から、放置すれば土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、溪床内に堆積する不安定土砂の流出防止及び安定が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に適切な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	たむぎがわ 田麦川 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 庄内森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は鶴岡市南東部に位置し、平成23年6月の豪雨により山腹崩壊が生じ、既設のコンクリート擁壁が被害を受けた。崩壊地は裸地状態にあり、このまま放置することによって豪雨・融雪等による被害拡大の恐れがある。このため、崩壊地の早期緑化等を実施し、崩壊地の拡大及び土砂流出の防止を図り、下方の林道の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.04 h a</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	19,356	千円
	総費用（C）	11,538	千円
	分析結果（B / C）	1.68	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば不安定土塊が崩落し、崩壊地が拡大し、保全対象に被害を及ぼす恐れがあるため、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、崩壊地の復旧が図られ、土砂崩壊機能の向上とともに、下方の保全等が図られることから、有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に適切な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事業名	保安林整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	さかた しょうないかいがん 酒田・庄内海岸 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 庄内森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、山形県西部位置する酒田市、鶴岡市、遊佐町の日本海に面した海岸防災林であり、日本海から吹き付ける強風から庄内地方を守る防壁となっている。</p> <p>本計画箇所の森林は松くい虫被害等による荒廃地が発生し、保安林機能が低下している。</p> <p>このため、被害木の伐倒・駆除の実施による被害軽減により、保安林機能の維持増進を図り、海岸防災林背後の人家、国道等を保全することを目的として事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 本数調整伐 100.0 h a</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	22,059	千円
	総 費 用（C）	2,885	千円
	分析結果（B／C）	7.65	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 林分の状況から、放置すれば被害が拡大し、保安林機能が著しく低下、飛砂等による後背地へ被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、松くい虫被害の軽減が図られるとともに海岸防災林の維持増進が図られ、人家、国道等保全が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 事業実施の計画に当たっては、現地の林分状況から見て妥当な事業区域、事業内容で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	^{わらぐち} 藁口 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は大石田町の北西部に位置し、平成23年6月30日の豪雨により山腹斜面に崩壊が生じ、多量の土砂が下流の農地及び用水路に流入する被害をおよぼした。</p> <p>この状況から、崩壊箇所には不安定土砂が多量に堆積しているため、今後の豪雨等による流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.20ha</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	62,930	千円
	総費用（C）	22,115	千円
	分析結果（B / C）	2.85	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば崩壊地が拡大して土砂が流出し、保全対象に被害を与える恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、堆積する不安定土砂の流出防止及び安定が図られ、水土保持機能の向上とともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果も認められることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	水源地域整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成26年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	寒風田沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は大蔵村の中央部に位置し、地質は肘折火砕流堆積物が溪流に挟まれた尾根部に広く分布している地域である。</p> <p>寒風田沢においてもシラス特有の深部決壊型で、大量の不安定土砂を生産しており、侵食は国道路肩の一部に陥没が現れるほど進行している。</p> <p>このことから、斜面侵食の防止及び土砂流出の防止を図り、国道等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.20 h a 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	84,500	千円
	総費用（C）	54,237	千円
	分析結果（B／C）	1.56	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 山腹崩壊地等の状況から、放置すれば侵食が拡大し、保全対象に被害を及ぼす恐れがあることから、当事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 事業の実施により、山腹斜面の安定が図られ、水土保全機能の向上とともに下流の保全が図られることから、有効性は認められる。 ・ 効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	水源地域整備（国有林）	事業実施計画期間	平成24年度～平成25年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	しおねがわ 塩根川 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は真室川町北東部に位置し、地質は新第三期中新世及位層、安山岩質火山礫凝灰岩に覆われている地域である。</p> <p>この地区は昭和50年の集中豪雨により死者5名が出るなど大きな被害を受け、平成22年9月にも豪雨による溪岸崩壊等により土砂が流出し、農地が埋設する等の被害が発生した。</p> <p>溪床には大量の不安定土砂が堆積している状況にあり、今後の豪雨により下流保全対象に被害を与える恐れがある。</p> <p>このことから、荒廃した溪流の安定と不安定土砂流出の防止を図り、下流の人家・農地等の保全及び保安林機能の増進を図るため事業を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	143,022 千円	
	総費用（C）	40,902 千円	
	分析結果（B／C）	3.50	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 溪流内の荒廃及び不安定土砂の堆積状況から、放置すれば下流に大量に流出する懸念があることから、当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により、溪流荒廃の復旧及び不安定土砂の抑止が図られ、水土保全機能の向上とともに下流の保全が図られることから、有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地の地形・地質・地理状況から見て技術的に妥当な工種・工法で計画されており、また、費用対効果分析結果も投資効率が確保されることから、効率性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査事項（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、適切かつ効率的な計画と認められる。</p>		